

1 研究主題

子どもや学級の成長を目指した指導方法の研究
～小学校・中学校が連携した指導を目指して～

2 はじめに

特別支援教育研究会では、児童生徒の成長を目指して指導方法を研究し、長年に渡り小中学校で連携して指導に取り組んできた。小中学校で連携することによって、子どもの小学校入学当初から中学校卒業までの成長過程や変化を共有し、それぞれ児童生徒の個性に合わせた効果的な指導方法を工夫することができると思ったからだ。コロナ禍ではあるが、今年度は「小学校・中学校が連携した指導」も間接的なものだけでなく、小学生と中学生が一緒になって関わり合う直接的な交流を少しずつではあるが、行えるようになった。また、特別な支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあり、小学校・中学校の連携の在り方や指導方法についても工夫が必要となってきた。

3 研究経過

- (1) 中学校のブロック別に分かれて授業の実践報告や教材研究を行った。
- (2) 講師を招き、卒業後の生活について話を聞いた。
- (3) ブロック別に交流行事等を開催した。

4 研究の概要

4 月	・ 組織作り
5 月	・ 班別（小中別）実践テーマ決め、年間計画
6 月	・ 実践報告：小牧中、北里中、光ヶ丘小、本庄小
7 月	・ 実践報告：三ツ淵小、小牧西中、小牧南小、北里小、篠岡小、味岡中
9 月	・ 講演会：社会福祉法人「けやき福祉会」
10 月	・ 中間発表会
11 月	・ 実践報告：村中小、小木小、応時中、桃ヶ丘小、岩崎中
12 月	・ 実践報告：小牧原小、米野小、光ヶ丘中、大城小、一色小
1 月	・ 実践報告：小牧小、陶小、桃陵中、味岡小

① ブロック別実践報告会について

今年度は、全員が集まって特別支援教育研究会を実施することができた。研究主題に合わせて各校で実践し、児童生徒の実態や指導の工夫、問題点等についてレポートを作成した。全体会では、市内25校を4ブロックに分けて、各校が持ち寄ったレポートについてブロック別に分かれて協議会を行った。協議会では、それぞれのブロック長が話し合った内容を集約し、全体場で発表し共有した。また、ブロック別実践報告会では、市内の小中学校に関わりのある一宮東特別支援学校、春日台特別支援学校、小牧特別支援学校の先生方を講師として招いた。各ブロックの協議会や全体会で指導や助言をいただき、研究会がより深まりのあるものとなった。各校の実践報告については、レポートをデータで共有できるようにし、それぞれで情報を得ながら実践に生かせるようにした。

② 講演会（9月13日）

「卒業後の生活」をテーマに、社会福祉法人「けやき福祉会」、大森様に講演を依頼した。普段から特別支援学級の児童生徒と関わる中で、彼らの進路や将来について向き合う際に様々な情報が必要である。講演会では、卒業後の主な活動場所や、生活の様子を教えていただいたり、卒業後の進路について考えを深めたりするなど、貴重な機会となった。

③ ブロック別に行う交流行事

今年度もクリスマス会は中止されたが、レクリエーションをした交流会を行うことができた小中学校もあった。また、以前のように直接的な交流会を行うことはできなかったが、デジタル機器を用いてオンラインによる交流会を行う小中学校もあった。オンラインによる交流会では、朝の時間を利用し自己紹介をしたり簡単なゲームをしたりして交流を深めた。また、各校の紹介動画を制作して互いに共有し、感想を伝え合うなどした。

5 今後の課題

ブロック別実践報告会では、各校の実践を聞くことで、互いに大きな学びを得ることができた。また、特別支援学校の先生方の指導や助言も、普段の指導を見直す学びの場となった。特別支援学級担任は、各校で指導方法や悩みを共有できる場が多くない。その点で、ブロック別で実践を共有し児童生徒の様子などを語り合う時間は有意義であった。また、社会福祉法人「けやき福祉会」の講演では、児童生徒の卒業後について理解を深め、将来を見据えた指導に生かすよい機会となった。ブロック別の交流会では、各ブロックで工夫しながら交流を深めることで、児童生徒の成長の場となった。

今後も特別な支援を必要とする児童生徒が増える中で、いかに小学校・中学校が連携したり児童生徒の教育的ニーズに応えたりしていくか、研究を重ねていきたい。